

「みんなの学校」上映会

&

木村泰子さんとお話する会

～質問内容～

【質問】 小学校の教員をしています。上映会楽しみにしていました。木村泰子先生への質問です。

- ① 先生にとって「よい先生」とはどんな先生でしょうか。
- ② これからの時代、必要な教員、または大人の力は何でしょうか。

お答えいただけますと幸いです。よろしく願いいたします。 山田

【回答】

- ① 「よい先生」＝「子どもに学ぶ先生」です。
- ② 学びの主語は子どもです。子どもが育つ するための教員や大人に不可欠な力は「人の力を活用する力」です。自分には無理と判断する力を持ってこそ、人の力を活用することができるのです。

【質問】 映画を見ると、校長先生の役割、腹決めが相当ウエイトをしめていると感じました。大阪でも1校程度しかない中で、水戸ではたして出来るのか？もし、大空小のような取り組みをしようと提案して実践するにはどうしたら良いでしょうか？又、地域やPTAはなにが出来るのでしょうか？

【回答】 まずは、学校に教員以外の大人が主体的に入っていく、困っている子どものそばにいます。毎日、困っている子どもは違います。教員だけではその日に困っている子どもを見つけられないのが現状です。パブリックの学校は地域住民のもので、校長が代って学校が変わると言うことがあってはなりません。自分の子どもの周りの子どもを育てに「できる人が できるときに 無理なく 楽しく」です。

【質問】 木村先生にお会いできるのをとても楽しみにしていました。小学校で生活指導員をしています。息子は自閉症スペクトラムですが、今年普通高校に入学しました。小学校に勤務して、どこまで支援していいか、毎日ふり子のようにゆれています。でも、みんなとともに成長するということを胸にとめ、子どもたちに関わっています。何かアドバイスありましたらよろしくお願いします。

【回答】 ただただ、子どものそばにそっといてやってください。「だいじょうぶ？」「何に困ってる？」「私にできることある？」この3つの言葉かけだけで十分。子どもが「困ってるから助けて！」って言ってくれます。もちろん、大人を信じるまでにはリハビリが必要ですが 子どもは大人を見分けるプロです。自分の味方だと感じると必ず声をかけてきます。「生活指導員」を「生活サポート員」に変えたいですね。

【質問】 コロナの3年間で、子どもたちは大きな見えないダメージを負った気がします。多くの子が打たれ弱く不安定になっていたり、攻撃的になったりしています。大人はそれに気付かずに、今まで通りを要求しようとしまい、更に傷を広げてしまう。いま、大人なすべきことは何だと思われますか。

【回答】 そうですね。大人が自分のことで精いっぱいだったような気がします。今は、とにかく何かをするのではなく、子どもを多方面からしっかり見つめることが大事なのではと思います。観てもらっていることに気付くと、子どもは自分から言葉を伝えてきます。それが一番安心することなのかなと覆います。

【質問】 大空小学校は少人数だからこそできたことなのではと感じ、今の小学校（40人弱）で大空小学校のような取り組みをするためにはどうすればよいのか気になりました。

【回答】 子どもの数が多くなれば大人の数も増やせばいいだけです。教員の数は増えませんが、サポーターの数はいくらかでも増やすことはできますよ。先生たちが一斉授業ではなく、グループをつくって学び合う授業を考えれば少人数での学び合い成立します。チャレンジしてみてもいいのではないでしょうか。

【質問】 関東でこの小学校作りは可能だと思いますか？

【回答】 「いつでもどこでも必要と思えばつくれます」子どもたちの合言葉でした。
できるかできないかではなく、必要だったらつくるしかありません。
土地柄に関係ないですよ。
全国のどの地域にも地域の学校はあります。全国、子どもたちはみんな同じです。

【質問】 就労を目指す軽度の知的障害をもつ生徒が通う学校で、家庭環境が複雑だったり、人間関係の構築が苦手だったりで“生きづらさ”を感じている様子の生徒がいます。木村先生なら、“生きづらさ”を感じていそうな生徒とは、どのように向き合いますか？

【回答】 一人一人みんな違うので、勝手なことを言いますが、ただ、いつも黙ってそばにいることから始める気がします。
そのうち、その子から声をかけてくる気がします。
大人を信じていない子どもは多いです。自分のありのままを否定されるのですから

【質問】

- ① 特別な支援を必要とする子どもをサポートする周りの子どもは、教師がどんな言葉をかければ、どんな接し方をすれば、偏見を持たずに自主的に助けようとする子どもに育つのでしょうか。
- ② 大空小を卒業した子どもたちはどんな中学校生活を送っているのでしょうか。

【回答】 教師がわかったつもりで始動することが一番子どもを分断しました。常に、教師の仕事は子どもと子どもをつなぐことです。自分の発する言葉をすべて問いかけに変えました。中学校ではそれなりに周りの力を活用しながらクリアーしていました。「おかしいよ」と言いながら

【質問】

- ① 映画の中で校長は子供のことを呼び捨てにしていたし、先生達への言葉使いも気になりました。子供でも一人の人間ですのでさん呼びが良いのでは。
- ② 医療行為との範囲を教えてください。学童保育の仕事をしています。保健室がないので。
- ③ 学校や教師が子どもに負荷をかける時 意識すべきことはございますでしょうか？

【回答】 ①大人の価値観です。子どもがどんなふうに呼ばれたら安心するかが大事です。さん付けにすることよりも、その子を丸ごと尊重することの方が不可欠だと思います大人も同様です。相手がどのように感じているかはいつも見失わないようにはしていました。②私たちにできることは限られています。まず保護者に相談することと、躊躇しないで医療にゆだねることです。③その子の今を知ることです。

【質問】 色々な子がいてあたりまえ、という雰囲気を作るのに一番カギとなることは何だと思えますか？自分自身と自分の子どもだけで学校全体の雰囲気を変えることが難しく感じています。

【回答】 そうですね。ハードルがたくさんあると思います。ただ、できることから少しずつ行動することでしょう。一人の大人の行動を子どもはしっかり見えています。そのうちに環境が変わってくるのではないのでしょうか。

【質問】 素晴らしい機会を与えてくださり、ありがとうございます。1つ質問です。なぜ、そこまで子ども達の教育に情熱を注ぐことができるのか、その力の源が知りたいです。

【回答】 大人の前の子どもはすべて弱者です。大人が子どもを困らせてはいけません。自分の子どもは育てられないものですが、他人の子どもは誰も育てられるのですよね。弱い者いじめが通る社会は残念です。

【質問】 今後の夢を教えてください。

【回答】

「みんなの学校」が全校で当たり前につくられていくことです。
木村さん来なくていいよと言われることかもしれません。

【質問】 木村先生が教師になろうと思ったきっかけと、きっかけが決意に変わった出来事があれば教えてくださいたいです。

【回答】

私の場合は紆余曲折しています。体育の教師になることが目的だったのですが、小学校に赴任して目の前の子どもに出会ってから、小学校の教員をやり続けました。
すべてのきっかけは子どもですね。

【質問】 中学校に入学すると校則などで生徒をしぼりつけてしまうことが多くある気がします。それが不安感やきゅうくつ感を与える気がしてなりません。服装や髪型などについての校則について、どうお考えかお聞きしたいです。

【回答】

服装や髪形は学びの目的ではありません。多様な社会で生きる力に何一つプラスになる手段ではありません。どんな服でも髪型でも、その子がその子らしく学ぶことが、学校の最上位の目的です。
校則で子どもを管理しなければならないような学校はもう通用しない時代に入りました。

【質問】 教職員が同じ方向を向いて、子どもを支えていくために必要なこと、リーダーとしてどのように働きかけていけばいいか、今悩んでいます。心がけていたことを教えていただきたいです。

【回答】 パブリックの学校の最上位の目的「すべての子どもの学びを保障する学校をつくる」

この目的を全教職員で合意することです。そのための手段はオールオッケーです。この目的に反する行動を教職員がとったときはすかさず「今のアウト」とあたたかく伝えることがリーダーの役割だと思っています。

【質問】子どもへの支援の仕方について同僚の先生方と意見が違ったり、考え方が違ったりした時、どのように周りの先生方を巻きこみ、納得させたのでしょうか。私自身が支援の仕方についてモヤモヤしているところもありますが。

【回答】

その子が困っていないかどうか対話のキーですね。先生のやり方の違いより、子どもが困っているかどうかをしっかりと言葉にすることです。そのためには子どもに学ぶ自分であることが不可欠でした。

【質問】

- ① 全校道徳を行うために、どんな準備をしたり、改善したりしましたか。どんなことに気を付けましたか。
- ② 教員（大人）が主体的に子どものために動く、考えるためにどのように伝えたらよいですか。

【回答】「自分から 自分らしく 自分の言葉で語る」この力をつけるが全校道徳の目的です。手段はどのような手段もオッケーです。

- ② まずは教員が失敗を恐れず、評価を気にせずに行動することです。そして、失敗すればやりなおせばいい。子の大人の姿を子どもは学びます。

【質問】

- ① 地域の人たちをどうしたら学校を応援してくれるサポーターを増やすことが出来るでしょうか。
- ② 個人差のある子どもたちの指導を同じクラスの中でどのように支援してきたのでしょうか。

【回答】「学力」の問い直しから始めました。見える学力と見えない学力に分け、10年後に必要な生きて働く力は「見えない学力」です。この学力は様々な違いを持った子ども同士がいつも一緒に学び合うからこそつけられるものです。受験のための学力を求める社会のニーズはすでに変まりました。

【質問】教職を目指し、通信大学に在籍しています。子どもたちが自分の事を好きになることが出来れば、子どもたち一人一人は自分の持つ可能性を开花させていけると信じています。しかし、世界の状況は知れば知るほどひどく、時々頑張っている自分のみ込まれそうになります。子どもたちを守るために、自分の心を守るには、どう心持をもってこの世界に生きていけばよいでしょうか。

ありがとうございました。来れて本当に良かったです。頑張ります。大久保

【回答】大久保さん これからの社会をつくるのは子どもたちです。今は確かに残念な社会です。こんな負の連鎖を引き継がないために、一人の大人にあこがれを持って社会をつくる大人になってほしいですね。子どもは誰一人、逆表現はしますが、裏切りません。すべての子どもを丸ごと信じる一人の大人でいてください。教員は楽しい幸せな商売ですよ。ぜひ、やり遂げてください。応援しています。

【質問】

- ① 幼稚園では対応していただいた保育所等訪問支援を小学校では対応してもらえず、小学校の壁を高く感じてしまい、不信感が募りました。この気持ちはどうしたらいいのでしょうか。
- ② 特に繊細な児童と接するときや、指導するときの言葉遣いで意識されていることはありますか。

【回答】 ① 学校に頼らない行動を主体的にとってください。学校は地域住民のものですから。
② 指示・号令・命令は捨てました。
子どもの表情を観ながら「問いかけ」に変えました。

【質問】 木村泰子さんへ質問です。自分が想像しているよりも子どもたちに対する対応や言い方が強いように感じました。寄り添うことが大切だとこれまで考えていたのですが、どんな区別をして対応しているのかお聞きしたいです。

本日は貴重なお話、お時間をいただき、ありがとうございました。

【回答】 外してはいけないのは大人がどのような対応をするかではなく、子どもがどのように感じ受け止めているかを子どもに学ぶことです。
丁寧にとか叱らないとかのマニュアルはすべての子どもには通用しません。
子どもに教えてもらう覚悟を負っていれば子どもが決めますよ。

【質問】 保護者とのかかわり方や信頼関係の築き方で困ったことはありますか。

【回答】
「自分がつくる 自分の学校」です。常に、違いを尊重し合って対等な関係性で居れることを大切にしていました。

【質問】 現在、本人は普通高校を一年の途中で退学し（トラブルがあり排除された）、特別支援学校に通学しています。小中と支援クラスにいましたが、自閉症と知的な部分もあり、将来のため、どういう風に本人と関わり、社会と関わらせていかせたか、アドバイスをいただきたい。

【回答】
本人を信じてください。周りにズタズタにされた子どもには巻き戻しが必要です。その子にどんな力をつけるかと言うより、周りの社会を変える行動をとっていきませんか。遠くをかけなくても足元から周りを変えることが急務です。

【質問】 教師として一番大切なことは何ですか。

【回答】

子どもに学ぶことです。

【質問】 スイッチが入り、「きゃー！」と叫ぶ一年生がいます。彼のために話を聞こうと試みますが、うまくいきません。2年ほど経ちます。どう対応してあげたらいいのでしょうか。

【回答】

「きゃー」を周りの子どもと一緒に通訳することですね。
周りの子どもがその子は困ることを感じている限り「きゃー」は加速するでしょう。
その子が「困っている」って周りの子どもたちが感じたら「きゃー」はその子どもも必要なくなるでしょう。

【質問】 今の教員って「いわゆる成功」ばかりしてきた人が多いので、失敗したくないから子どもを許せないのかなと思います。(私も教員ですが) 失敗してOKの雰囲気を作るのは一人だと難しいなと思います。まず何からやったらいいのでしょうか。

【回答】

おっしゃる通りだと思います。
子どもに学ぶことからですね。子どもに言われたことや先生頼りないよって言ってもらえたら大成功ですよ。そんなことを職員スつでオープンに語るのもいいですね。

【質問】 木村さんはどうして先生になろうと思ったのですか。

【回答】

一言では言えませんね。ごめんなさい。
なんか、先生になることしか考えていなかっただけのようです。

【質問】 「なぐったAが幸せになって殴らなくなれば」と大人（保護者）が思うには、どうしていけばよいでしょう。(問題を起こさせないのが先生の仕事) と思っている社会があり、問いかけですまず苦しんでいる先生方も多いと思います。ななめの関係の作り方のアドバイスをいただきたいです。

【回答】 一人で仕事をしないことです。

トラブルを学びに変えるのが学校の役割です。
一人の子どもを多方面から全教職員で見つめる環境がなければ子どもは育ちません。
一人でも二人でもチームをつくりませんか

【質問】後半、堀先生が「30年後に地域も変わってくる」と言っていました。大空の地区、まだ30年は経っていませんが、変わりましたか。それは続いていますか。

【回答】もちろん、新しい人たちが入ってくることで元に戻ろうとする力は働きます。ただ、自分がつくる自分の学校なので、子どもたちはなかなかブレないようです。その子どもたちを支えているのが「地域の力」です。卒業生がその中に入ってきたようです。

【質問】「みんなの学校」を作りたい話した3年生へのアドバイスを私も知りたいです。※会場では、校長先生に直接話に行くようなアドバイスをされています。

【回答】「自分がつくる自分の学校」は誰にも否定はできません。校長先生いっしょにつくろうって何度も何度も校長と対話することから始めることですね。必ずその子の周りにチームができていきます。大人の底力を発揮する場です。

【質問】小学校3年生です。僕の学校でやるのにはぼくはどうすればいいですか。

【回答】会場で回答済み

【質問】せいしろうくん、まさき、かずきは今どうしていらっしゃるでしょうか。「その後」を可能な範囲で教えていただけたらありがたいです。

【回答】会場で回答済み